

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づいて 「自主・自律」「己を鍛え己を磨き、ともに切磋琢磨」「己を大切に、他を思いやる」人材を育成する。

- 1 夢を叶える学校として・・・将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活を送れる学校
- 2 才能を磨く学校として・・・普通科専門コース制の学校として、各コースの特色を生かし、自己の興味関心を発展させて、得意技として磨きをかける学校
- 3 社会そして世界へ繋がる学校として・・・社会人として必要なコミュニケーション力や語学力を身につけ、国際社会に通用する人材を育成する学校

2 中期的目標

1 学力の向上及び自己表現力の育成と授業改善の取組み

(1) 確かな学力の育成（基礎学力の定着、発展的学力の育成）

- ア 「知識・技能」の修得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の滋養を行う取組みを意識して授業実践をする。
- イ 生徒の学習意欲を向上させ、学習内容を定着させるために、双方向性に富む授業を行い、一斉講義形式の授業から一層の脱却を行う。
- ウ 学力の定着を図るために宿題・課題（質・量・教科バランスを考慮）を課し、学習の振り返りを行う。

(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 観点別学習状況の評価を進め、計画・実践（指導）・評価・改善という一連の活動を繰り返すことにより授業改善を行う。
- イ 様々な教科・科目で「主体的・対話的で深い学び」を実践する。
- ウ ICT機器を効果的に活用し、視覚に訴える授業の充実や体験的学習を取り入れた指導方法の工夫に努める。

(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成。

- ア 教科授業に加えて学年の取組みや行事、コース授業を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。
- イ 国際共通語としての中心的な役割を果たしている英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成する。

※学校教育自己診断「…宿題や課題が適度に出される。」が平成30年度、前年度64%から80%に上昇。2021年度の目標値を「75%～80%維持」に、同様に「…予習や復習が必要である。」を平成30年度、前年度28%から56%に上昇。2021年度の目標値を「56%維持」にする。

2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する

(1) 進学実績の向上

- ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようにする。
- イ 長期休暇期間中、「進学特別ルーム」及び「アドバンス学習室」を自習室・大講義室として開放する。
- ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。

※難関8私大（関西大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学・京都産業大学・近畿大学・甲南大学・龍谷大学）・中堅私大（大阪経済大学・関西外国語大学・京都外国語大学・神戸学院大学・阪南大学・摂南大学・追手門学院大学・大阪産業大学・京都女子大学・仏教大学）の延べ合格者数（平成31年度生141名 3月現在）を2021年度「150名」台にする。

(2) キャリアデザイン（以下CDと記載）の推進

- ア 自分の人生・生き方・進路について考えさせる「キャリアデザイン」を「総合的な探求の時間」を活用して推進する。
- イ 入学から卒業までの段階を踏んだCDプログラムに基づき、進路先の更にも先にある職業意識を育む。

※学校教育自己診断における「…進路についての情報をよく知らせてくれる。」（平成30年度77%）を2021年度78%をめざす。

同様に、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」（平成30年度84%）を2021年度も「80%後半を維持」する。

3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

- ア 遅刻指導を継続し、「遅刻はダメ」という意識に訴える指導をおこなう。
- イ 毎日の登下校時及び毎時間の開始・終了時の挨拶の励行。
- ウ 日常から言葉遣いの指導を徹底し、正しい言葉遣いへの意識向上を図る。

※遅刻平均総数（平成30年度2439回）を「前年度より下げる。」

*11月末現在の昨年度との比較 2019年度総合計1,669件（2018年総合計1,752件）

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

- ア クラブ活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を継続する。
- イ 豊島高校展（作品展）で生徒の学習の成果や文科系クラブの発表の機会とする。
- ウ 部活動を中心とした清掃活動を継続し、校内の特定箇所の集中清掃や校外の地域清掃を行う。
- エ 生徒会活動や学校行事の活性化を継続して行い、生徒が主体的に運営する機会を増やす。
- オ 国際交流を深め、文化や習慣の違いを尊重する精神等を育み、海外の学校との連携を強化する。
- カ 人権教育の指導計画を基に、豊かな心を育む教育を推進する。

※学校教育自己診断の「学校行事における肯定率」が平成30年度 前年度51%から57%に上昇。2021年度の目標値を「60%」にする。

4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織づくり

(1) 「分掌部会」等の開催

- ア 分掌内での業務の分担・見える化を行い、業務の継承ができるようにする。
- イ 経営会議・運営委員会等既存組織を課題解決の中心として機能させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【満足度】</p> <p>*「本校への入学満足度」：保護者肯定率が88%になり、前年と比較するとやや下がった（前年90%←前々年89%）が、高水準を維持していることから、保護者から一定、肯定的な評価をいただいていると判断する。生徒肯定率が73%（←70%←71%）とやや上昇したが、ほぼ横ばい状態で大きな変化はない。生徒の満足度がほんの僅かであるが下降していたのが止まった。1年（70%）、2年（73%）、3年生（76%）と満足度が上がるのは、生徒の「居場所」が学校の中にある「証し」と理解する。</p>	<p>【第一回（令和元年6月26日）】</p> <p>*学校経営計画について、委員からの主な意見は次の通り</p> <p>コースの再編について賛成する。一般入試に対応できるコースであるべきである。選択の幅が広がる。メルボルン大学に1人卒業生が進学しているの、頑張った生徒もいるのが分かった。大学進学者数は知ることが出来るが、どのコースの生徒が進学したかを見るのは初めてである。大学のコースに直結して高校側は努力しているのが分かった。3年間で子供たちの進路は変わるので、細かくではなく、大枠で進路選択ができるようにするのは大切である。生徒の一般入試にも選択の幅が広がるので、コースの見直しは賛成である。コースの生徒の意識として、この様な勉強をして、この様な大学に行こうとする意識はあるのか。高校時代は</p>

府立豊島高等学校

*「学校に行くのが楽しい」：保護者肯定率 79% (←82%←84%) は下がったが、生徒肯定率は 70% (←67%←72%) となり、7 割をキープした。ただし、それ以上をめざしていきたい。
*「学校行事や生徒の活動が活発な学校である」が 65% (←56%←51%) と 3 年連続の上昇を見た。昨年の文化祭開会式の実施形態変更・予餞会など、生徒部の動きが生徒たちに受け入れられた結果であると考えられる。

【学力向上】

*「入学後自分は成長したと思う」：76% (←73%←74%) とやや上昇。1 年生 (68%) が他の学年に比較 (2 年 [81%]、3 年 [80%]) して低いのは「成長を実感する」には 1 年間は少し期間が短いのではないかと。
*「他の学校にない特色がある」62% (←54%←63%) とやや持ち直した。「普通科専門コース制」になり昨年度初めて卒業生を出し、コース制の認知度が上がったことも 1 つの要因だろう。
*「(授業 (実習や演習含む) では、コンピューターやプロジェクターを活用している」：73%←72%←51%、1 年生が 81% と昨年同様高い数字となった。ICT 機器の利用が年々、着実に広がっている。

【進路・行事・部活動】

*「進路についての情報をよく知らせてくれる」：生徒肯定率 65% と (←75%←68%←63%) 10 ポイント下がった、保護者肯定率 51% (←54%←54%←46%) と僅かに下降。生徒・保護者に対する更なる情報発信が必要であろう。
*「クラブ活動が活発な学校である」：生徒 72% (←71%←77%←81%←85%) とほぼ横ばいだが、普通科専門コース制への改編後、下降が続いている。「部活動をするために」本校を選んだ層が、明らか減ってきている。この事は保護者の肯定率にも表れている。77% (←80%←84%←83%←84%)。
*「人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」：生徒 77% (←77%←73%←62%) で変化なし。保護者 50% (←58%←54%←50%←64%) と若干下降した。原因は 1 年生の保護者が 41% と低い値となった。保護者が参加可能な研修を保護者向けに小まめに発信した年は全学年高かったため、今後注意して行く。

幅広く学ぶべきで。具体的にコースの再編についてどのようにお考えか教えていただきたい。

*新入生アンケートについて

2 月の説明会は有効です。中学校としても薦めやすい。行事を通して中学生は学校を見ている。文化祭も中学生にとっては高校を見る良い機会である。中学校の先生からの情報、中学に配付された案内で約 50% が豊島高校を知るきっかけになっているので、まずはその点を踏まえてから文化祭に来るといった流れがある。クラブ活動が豊島を選んだ理由の 1 番であったが、最近減ってきているのはなぜか。→活動の質、戦績 (近畿大会・全国大会) も少し関係している。近畿・全国をめざすまでは考えていない生徒が増えたか。スポーツコースの生徒はクラブを頑張りたいという思いで豊島に来ている。大学進学したい生徒が影響している可能性あり。男女比率が異なっているのはコースが関係しているか。→志願者の段階から女子が多かった。
*進路状況について
大学も一般入試が減り、推薦入試が増えており高校側の苦勞も良く理解できる。

【第二回 (令和元年 10 月 16 日)】

学校経営計画及び学校評価の進捗状況について、委員からの主な意見は次の通り。

*大学見学バスツアー

生徒が自分で大学を見て、肌で感じるのが大事。参加すると良かったとなる場合もある。生徒は受け身であるので、自ら積極的に働くのが本来の姿であるが、学校側から情報をどんどん与えることが大切である。学校からの刺激は子どもが動くきっかけになる。データとしてバスツアーに参加した生徒と進路結果の追跡調査を行えば、入学後の不適応や中退率の低下につながるだろう。データがあれば費用支出の根拠として利用できる。高校 1 年生の時に刺激を与えれば、その後の 2 年間で生徒が「変わる」こともある。様々な情報が氾濫しているが、このバスツアーのように自分で体験することに勝るものはないのではないかと。

*勉強合宿

学習の進んでいる生徒が、合宿で生徒同士が教え合うこともできるのではないかと。

*いじめアンケート

いじめは予防も重要だが起きた後の対応の方が重要である。価値観の違いもあるが、いじめは起きるものとして考え、起きた後どうするのか、犯罪レベルにならないよう迅速に解決するための体制ができているか、などを考える方が大事ではないか。いじめの件数が何件以内という評価指標ではなく、いじめが起きた時のための体制整備、実際に発覚から解決までにかかった期間やそのプロセスなどを評価指標に変えるべきではないかと。

*第 1 回授業アンケート

昨年、今年と同じ生徒が答えているので、1 年の時より 2 年で意識 (授業に対する動機付け) が若干下がり、3 年で上がったと読み取れる。この間に実施した大学見学や勉強合宿が功を奏して、2 年生より 3 年生で上がっているかもしれないので、過去 3 年分のデータの推移を見るとよいのではないかと。中だるみがあって、次に上がるなど先生方が肌感覚で持っているものがデータ上に現れているようにも見えるので、同一集団内の追跡調査を実施されてはどうか。エクセルの分析ツールを使って分析してみるといいのではないかと。例えば、対応のある t 検定 / 対応のない t 検定を行うことで数値の変化が意味のある差なのか誤差の範囲内なのか分かって数値に一喜一憂しなくても済む。また、マクロで分析手順を記録しておけば今後の作業にかかる時間も少なく済むので教員の働き方改革にもなる。作業効率を上げる工夫を考えてみてもらいたい。

*教科書採択結果

教科書選定のプロセスや資料を保護者に見せても良いのではないかと。選択肢は他にもあるということを理解してもらおうことも良いのではないかと。この様に選択していただいているのありがたい。副教材はどのように活用しているのか。→例えば数学であれば、教科書の問題を解いた後、副教材の問題をノートに写して解き、そのノートを提出させる等の活用をしている。

【第三回 (令和元年 2 月 12 日)】

*平成 31 年度学校経営計画及び学校評価について協議した。委員からの主な意見は次の通り。

- ・進路の情報については、どういう情報の提供を保護者が望んでいるのか把握しているか。進学を希望する生徒には学校から知らされる情報は大変大事である。学校教育自己診断は、結果を踏まえてどう行動したかが重要。評価を受けて、どの様に行動したかを記入すべきではないか。結果が 7 割達成されているので、学校の努力はよく理解できる。
- ・遅刻の件数は減っていないが、遅れても学校に来ようとしているのは自分の居場所が学校にある証である。携帯電話や生活のリズムなど学校の取組みを保護者にどの様に確実に知らせるか、どの様に保護者に関心を持ってもらうかが大切。
- ・保護者の方々はお仕事をされている方が殆どなので、保護者対象説明会等学校に来ていただくことは難しいのではないかと。
- ・親子のコミュニケーションもあまり取れていないのではないかと。人権の設問も子どもの数値は高いが保護者は低い。プリントも保護者の手元には届いていない現実はある。

*第 2 回授業アンケート及び学校教育自己診断について

- ・人権の項目が年々高くなっているのはどのような取組みをされているのか、教えて欲しい。←当事者の方の声を直接聞くという取組み (講演会) を多くしている。
- ・この 3 年間で色々な事が改善されているのは学校が努力されている証拠であるので、評価できる。
- ・質問 18 (保健室や相談室等の利用) と質問 32 (生徒が困っている事への教員の対応) はグラフからは低く感じるが、実態はどうか。←来室記録が残せない程の来室があるのが現状。
- ・教員のアンケートが 3 年間で、殆どの項目で上がっているのは改善できていると評価できる。
- ・豊島高校でかけがえのない友人に出会えたが 90% に近いことは素晴らしいことである。保護者としても豊島を選んで良かったと思う。

*令和 2 年度学校経営計画

- ・遅刻はダメという表現は、学校が誤解を招かないようにしていただきたい。別の表現はどうか。
- ・めざす学校像の「自主・自律」は「自主・自律心を持った人材」とすべきである。
- ・生徒の進路実現が 1 「学力の育成」の項目に入っているが、従来の様に、2 「自らの将来を見据え、将来の寄って立つぶれない軸を形成する」項目に入れる方が良いのではないかと。2 の項目が少ないように思える。
- ・項目 4 (1) ウ「教員の働き方改革」は重要なので独立した項目 (2) を新たに設けた方が整理できるのではないかと。

*42 期生 (現 3 年生) の進路状況について

- ・関西圏より遠い学校を受ける生徒はあまりいないのか。

※学校運営協議会実施要項第 2 条に従い、次年度学校経営計画を承認した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上及び自己表現力の育成と授業改善	<p>(1) 確かな学力の育成 ア 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の滋養の取り組み イ 双方向性に富む授業の実践。一斉講義形式の授業からの脱却 ウ 宿題・課題</p> <p>(2) 「わかる授業」、「課題解決型の授業」の創造 ア 計画・実践(指導)・評価・改善の一連の活動による授業改善 イ 「主体的・対話的で深い学び」の実践 ウ ICT機器の効果的な活用。指導方法の工夫</p> <p>(3) コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成 ア コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成。 イ 英語の4技能の育成</p>	<p>(1) ア、イ 一方的な講義形式の授業から脱却し、発問・課題を工夫し生徒同士意見交換する等、自分で考え、理解を深める時間をつくる。また、自分の授業が4つの要素のどれを滋養しているか意識する。授業開始時と終了前に「めあて」(何を学ぶか)の説明と、「まとめ」を行い、学習内容を生徒が俯瞰できるようにする。</p> <p>ウ 授業外学習に取り組むよう、教科の宿題のみならず、プリント等による授業の予習・復習を習慣化させ学力向上につなげる。</p> <p>(2) ア 授業アンケート後提出の「振り返りシート」に関連する項目の記述を追加する。</p> <p>イ 各科目で「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ウ 教科を限らず、できる教科からICT機器を利用する授業を充実させる。</p> <p>(3) 教科、学年、総合的な学習の時間等を活用し、プレゼンテーションをする機会を多く設ける。 ・スピーキングテスト導入に備え、教育課程、実施体制等校内の体制を整える。</p>	<p>(1) ア、イ 生徒向け学校教育自己診断の「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」の肯定率を平成31年度80%(平成30年81%)に、「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある。」の肯定率を平成31年度75%(平成30年74%)にする。 ウ 同自己診断の「本校の授業では、宿題や課題が適度に出される。」の肯定率を平成31年度80%(平成30年80%)にする。</p> <p>(2) ア、イ 授業アンケート結果における授業満足度平成31年度86%維持。(平成30年度86%) ウ 学校教育自己診断の「本校の授業では、実習や演習、コンピューターやプロジェクトを活用している。」平成31年度72%(平成30年72%)を維持する。</p> <p>(3) ・学校教育自己診断の「発表する力」平成31年度53%(平成30年度52%)、「相手とコミュニケーションする力」62%(平成30年度61%)、「自分で考える力」60%(平成30年度59%)をめざす。</p>	<p>(1) ア、イ ・「本校の授業では解答や発言を求められる機会がある。」78%(平成30年度80%)(△) ・「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある。」71%(平成30年度74%)(△)</p> <p>ウ ・「本校の授業では、宿題や課題がよく出される。」65%(平成30年度80%)(△)</p> <p>(2) ア、イ ・授業アンケート(12月実施)令和元年度授業満足度86%(○)</p> <p>ウ ・「本校の授業では、実習や演習、コンピューターやプロジェクトを活用している。」73%(平成30年度73%)(○)</p> <p>(3) ・「発表する力」55%(平成30年度55%)(○) ・「相手とコミュニケーションする力」63%(平成30年度61%)(○) ・「自分で考える力」61%(平成30年度59%)(○)</p>
2 進路実現	<p>(1) 進学実績の向上 ア 難関私立大、中堅私立大への合格 イ 会議室等の自習室・大講義室として開放 ウ 進学意識の醸成</p> <p>(2) キャリアデザイン(CD)の推進 ア 「キャリアデザイン」の「総合的な探求の時間」での活用 イ CDプログラムに基づく職業意識の醸成</p>	<p>(1) ア、イ 勉強合宿を実施し、参加について保護者に早い時期から知らせる。 ・全学年を対象とする大学見学ツアーを夏季に2回実施し、早い段階から大学への進学意識を醸成する。 ウ 進路に関する情報を、多く発信し意識の向上につなげる。</p> <p>(2) ア CDの時間で、将来の自分を設計するキャリア教育の充実を図る。地域の人材や各界で活躍する人の講演を実施し、職業意識の醸成を図る。保護者にも情報提供を綿密に行う。 イ 同上</p>	<p>(1) ア、イ 参加人数を施設の許容人数限界まで確保する。 ・大学見学バスツアーを2回継続実施し、生徒の進学意識を高める。実施後アンケートを行い、意識変化を見る。 ウ 学校教育自己診断の「進路についての情報をよく知らせてくれる。」平成31年度78%を(平成30年度77%)めざす。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断での「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の平成31年度肯定感80%台を(平成30年度84%)維持する。</p>	<p>(1) ア、イ 参加人数は40名弱 学年の指導として最上位層は学習の習慣が付いているので自宅で学習するよう指導した結果の人数である。(○) ・大学見学バスツアーを2回実施 満足度の高い結果に終わる。(◎)</p> <p>ウ ・「進路についての情報をよく知らせてくれる。」65%(平成30年度77%)(△)</p> <p>(2) ア ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」79%(平成30年度84%)(△)</p>

府立豊島高等学校

3 生徒の育成	<p>(1) 生徒の規範意識の向上、挨拶運動の励行 ア 遅刻指導の継続 イ 挨拶の励行 ウ 正しい言葉遣いへの意識向上</p> <p>(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神・地域社旗との繋がり・国際感覚の醸成 ア 部活動充実 イ 豊島高校展の継続 ウ 部活動を中心とした清掃活動の継続 エ 生徒会活動や学校行事の活性化の継続 オ 国際交流の促進。海外の学校との連携強化 カ 人権教育の指導計画を基に、豊かな心を育む教育の推進</p>	<p>(1) ア 遅刻の多い生徒については、早朝登校や個別指導を徹底し、改善をはかる。 イ 朝の立ち番の継続 ウ 現場で即対応できる教員の意識の向上</p> <p>(2) ア、イ 新1年生を対象とするクラブオリエンテーションの継続。部活動参加生徒の活躍の場を与え、その魅力を実感させる。 ウ、エ 生徒会が中心となった中学生向け学校見学会の参画や体育祭・学園祭の運営を通じて、学校への誇りと生徒の自主自律の精神を育てる。文化祭の実施形態の充実を図る。 オ 韓国慶南女子高校、南山高校、オーストラリア Modbury High School との交流を継続し、国際感覚の醸成につとめる。 カ 生徒の個性を大切にし、お互いの多様性を尊重して、いじめのない学校をめざす。</p>	<p>(1) ア、イ 遅刻総数前年度比減。同一遅刻者の重複をデータとして分析、総数と比較し、原因を探る。 ウ 学校教育自己診断で「人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い。」を平成31年度78%にする(平成30年度77%)</p> <p>(2) ア、イ 学校行事での生徒中心の運営、部活動の地域事業への参加回数年間30回以上。 ウ、エ 学校教育自己診断で「学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」を平成31年度58%(平成30年56%)にする。 オ 海外の学校との国際交流を継続発展させる。新しく始まったオーストラリア長期派遣生徒を継続させる。 カ 安全安心アンケートのいじめ件数2件以内。</p>	<p>(1) ア、イ ・遅刻総数前年度比減。同一遅刻者の重複をデータとして分析、総数と比較し、原因を探る。 分析は完了しているが、教員からの話だけでは減らないのが現状。(○)</p> <p>ウ ・「人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い。」 77%(平成30年度77%)(○) 成果として、ボランティアサークルが規模は小さいながら続いている。</p> <p>(2) ア、イ ・学校行事での生徒中心の運営 体育祭・文化祭で実施済(○) ・部活動の地域事業への参加回数年間30回以上。 定期的に複数のクラブが実施。合計32回(○)</p> <p>ウ、エ ・「学校行事や生徒の活動が活発な学校である。」 65%(平成30年度56%)(◎)</p> <p>オ ・国際交流を継続 オーストラリア2週間語学研修実施済。成果あり。(◎) ・オーストラリア長期派遣 検討の余地あり(○)</p> <p>カ 安全安心アンケートのいじめ件数2件以内。 アンケートでは目標クリア。学校運営協議会からの指摘事項であるが、いじめの件数を目標にするのではなく、事後の体制整備等を目標にすべき。(○)</p>
4 課題の共有	<p>(1)「分掌部会」等の開催 ア 分掌内での連携・調整を強化する。迅速な課題解決に向け、校内組織を固める。</p> <p>イ 経営会議・運営委員会等既存組織が課題解決の中心としての機能を持つ。</p> <p>ウ 働き方改革の実施</p>	<p>(1) ア・時間割中での「分掌会」又は「教科会」の開催を(技術的な制約はあるが)保証し、分掌・教科で課題検討・解決のスピードアップを図ると共に、放課後の会議による時間の拘束を減らす。</p> <p>イ 新教育課程の本格的な検討をする。検討スピードを上げるために、首席を座長にする。</p> <p>ウ ノークラブデイ及び一斉退庁日の完全実施の継続。</p>	<p>(1) ア 分掌会議・教科会が時間割的に保証できるかを指標とする。</p> <p>イ 今年度の完成をめざす。</p> <p>ウ 月当たりの超過勤務時間80時間を超える人数(平成30年11人)の減。</p>	<p>(1) ア ・分掌会議 (全部ではないが)時間割に組み込む。(○) ・教科会 放課後の設定(△)。講師の先生の時間割上の制約もあるが、次年度も分掌会議は可能な限り時間割に組み込む。</p> <p>イ 鋭意作成中 骨子はできている。(○)今年度、選択科目2～4単位以外は完成。</p> <p>ウ 令和2年1月現在 7人(○)</p>